



月刊 労働千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

97.4.21 No. 4584

特措法改悪阻止 叫び争いが大高揚!!

ときあたかも昨年、日米安保の大改定、「日米共同宣言」がおこなわれた四月一七日。米軍用地特別措置法改悪阻止闘争が大高揚した。
この日の闘いの先陣は、国会内の傍聴席での闘いによって切り開かれた。

「翼賛国会」を弾劾!

沖縄から参議院本会議の傍聴に駆け付けた、沖縄反戦地主会会長の照屋秀伝さん、知花昌一さんを始め「翼賛国会」を許さない闘いが爆発した。そして、その先頭にたった傍聴団二二名を橋本政権は検束・逮捕するという暴挙にでた。

照屋会長はこの暴挙をこう弾劾した。「今、この参議院で米軍用地特措法の改悪が強行判決されようとしています。沖縄戦以来、沖縄の人たちが命をかけて取り戻そうとしてきた土地を日本政府と国会がたった一時間ほどの審議で永遠に取りあげてしまおうとしています。そして当然にもそれに反対して声をあげた私たちを、国会は排除してさらに拘束しています。私たちが監禁されています。これが今の政府と国会の姿です。…」
憲法にかかわる、日本の進路にかかわる重要な法案をわずかに二週間の国会審理で判決を強行

土地泥棒 叫び封じ

特措法改正案 成立

反戦地主ら逮捕
国会の様子を報じる
「翼賛の新聞」

するといふのだ。傍聴にかけつけ、止むに止まれぬ抗議の意志を表明することは当たり前のことだ。このことは支配階級自らが議会制民主主義に死を宣告したに等しい。
野党勢力の不在、労働者党の不在、民意がまったく反映されない、無力な骨抜き国会だ。

悪魔を退治

照屋会長はつづけてこう弾劾した、「きょう私たちは『国会にいる悪魔』を退治しに沖縄からやってきました。その私たちが閉じこめてまで強行しようとする特措法の改悪は絶対に認められません。みなさん! 私たちと共に声をあげて下さい。ともに闘って下さい!」
これに呼応して夕刻、開催された沖縄三者共闘 (沖縄反戦地主会・違憲共闘会議・一坪反戦地主会) 主催の全国総決起集会には東京・芝公園に七五〇〇名が結集し、怒りの集会、デモががちとられた。動労千葉も総決起し、動労水戸、国労の仲間と共に東京駅まで、労組行列の先頭

で、反戦共同行動委の仲間達も果敢なスクラムデモを貫徹した。公開審理闘争への敵対を、違憲共闘、反戦地主会から「ゲシユタポ」と断罪された革マルはこの集会破壊のための介入を策したが失敗。国鉄闘争と共に、そのファシスト的本性が全労働者の前にますます明らかになった。

五月闘争の闘争

四・一七闘争の高揚は、特措法の改悪成立によって沖縄闘争の圧殺→軍用地大量期限切れをむかえる、五・一四〜一五の闘い、秋のガイドライン闘争をたき潰す狙いを打ち破り、安保・沖縄闘争の実力決起の展望を切り開いた。
特措法にすするものぞ! 沖縄の闘いは、まさにこれからが本番だ。

橋本は、この特措法改悪を手土産に二四日、訪米しようとしている。今回の訪米の目的は、大きくは、秋のガイドライン改定の下準備だ。この「ガイドライン」とは、「日米防衛協力のための指針」、つまり、日本とアメリカの軍事協定のことだ。
昨年四月一七日の日米首脳会談では、日本本土内のみであった日米安保を、アジア、太平洋、中東への拡大と朝鮮侵略戦争への体制確立を、「日米共同宣言」として発表した。

この具体的中身、自衛隊が朝鮮に出兵できる体制をつくるためのものが、八三年に制定されたガイドラインの改定だ。このために、出撃拠点となる沖縄の基地が絶対に必要なのだ。

動労千葉は、沖縄の怒りを我が怒りとし、国鉄闘争と結合して、本土の労働者の最先頭で、橋本訪米阻止闘争から、五・一四沖縄闘争、ガイドライン改定阻止の大爆発へ進撃しよう! 闘う労働運動の新しい潮流を創りあげよう!



特措法改正に抗議してデモする沖縄反戦地主会と支援の人たち—東京都港区で17日午後7時50分、松山山崎ビル前

「怒、沖縄は生き抜くぞ、沖縄東京行きの先頭に、デモ。」